



商工中金景況調査（2024年5月調査・定例分）の公表について

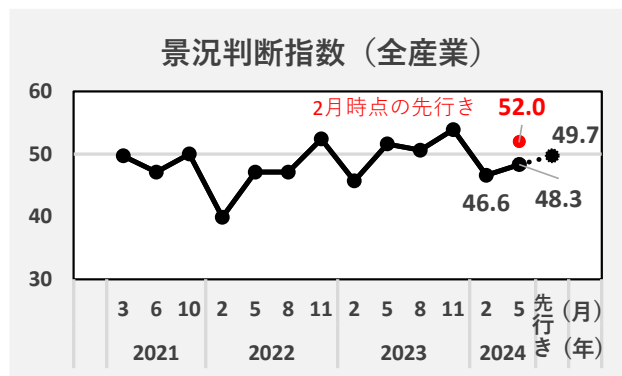
商工中金は概ね四半期に一度、中小企業の景況感などの実態把握のため景況調査を実施しており、今般2024年5月調査のうち毎回共通の質問項目（定例分）の結果について公表しました。

<2024年5月の景況感>

5月の景況判断指数は2期連続の「悪化」超

5月の景況判断指数は48.3となりました。前回2月調査での見通しは52.0と「好転」超を見込んでいましたが、「悪化」超にとどまり、先行きも49.7で横ばいの見通しです。

業種別では、情報通信業、化学、運輸業などでは改善の動きがありました。一方で、飲食・宿泊や小売業では、2月対比マイナスとなり、原材料や物価の高騰、価格転嫁の困難さについての声が聞かれています。

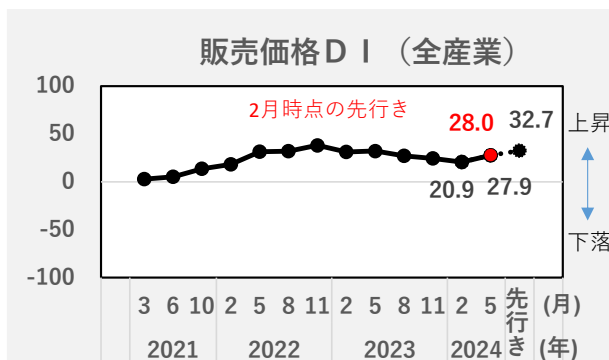


<2024年5月の業況判断>

【販売価格】運輸業では大幅に「上昇」超幅が拡大

販売価格について、「上昇」超幅は拡大に転じ、先行きも上昇見通しとなります。

中でも運輸業では、大幅に「上昇」超幅が拡大し、価格転嫁等についての声も多く寄せられました。



- ・本編資料は[こちら](#)をご覧ください。
- ・トピックス調査分(中小企業の経営人材の採用・育成および副業・フリーランス人材の活用状況について)は7月中に公表予定です。